

景況レポート

(5月分・情報連絡員80名)

円安によるコストアップが収益を圧迫

【概況】5月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが13.9%(前月調査12.5%)、「悪化」が43.0%(同36.3%)で、業界全体のDI値は-29.1となり、前月調査と比較して5.3ポイント下回り、前月調査と比較して8項目すべてが悪化した。内訳として、製造業全体のDI値は-25.8で前月調査(-25.0)と比較して0.8ポイント下回った。また、非製造業全体のDI値は-31.3で前月調査(-22.9)と比較して8.4ポイント下回った。

製造業では、前月に引き続き、円安の影響で、国産製材品の受注が安定しているほか、繊維製品も、国内生産へのシフトが進んでいるが、燃料費や材料費の高騰による収益への影響が懸念されている。

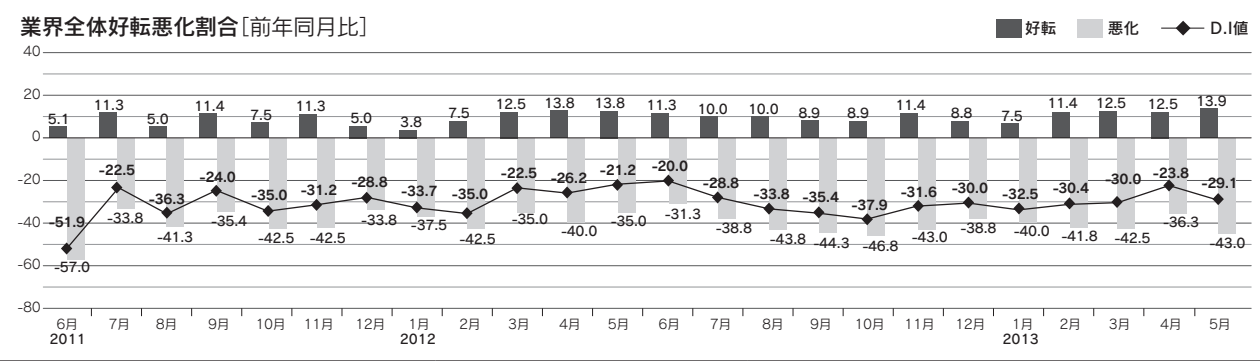
非製造業では、県内の工事の動きがまだ活発でなく、今後に期待する声が聞かれるが、円安による燃料や資材の高騰が不安材料となっている。(回答数：79名 回答率：98.8%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種						
製造業	☔	☔	☁	☔	☔	☔
非製造業	☔	☔	☔	☔	☔	☔

【凡例】

 [天気図の見方] 前年同月のDI値をもとに作成しています。
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30未満
 雨 △30未満
 雷雨 △30未満

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。



業界の声

- 豆腐油揚製造** 最近の円安傾向により、燃料費が高くなり包装資材も値上げが続いている。原料大豆もジワジワ上がっており、現状の販売価格では採算は取れない。また、過当競争が続く値上げは出来ない状態にあり、景況は極めて悪い。
- 繊維製品** 円安が続いているため、海外生産はコストアップとなっており、繊維業界では国内生産への切替を検討中。特に、日本から資材を送る加工貿易で大幅な見直しが予想される。
- 一般製材** ①メーカーの在庫数量は引き続き低調に推移しており、国産針葉樹合板価格は強含みの展開が続いている。木材利用ポイント制度の実施に伴い、更に価格が上昇する可能性がある。
②木材利用ポイント制度が始まり、杉KD材の問い合わせが増加している。荷動きはまだみられないが、大手商社やプレカット工場では需要を見込んで手当に動いている。
- 舗装材料** 5月の出荷量は1,330トンであった。未だ大口の受注がない状態で、今後が不安である。
- 再生資源卸** 海外市況もあまり良くないことから、鉄の価格はいつ値下がりしてもおかしくない状況にある。
- 自動車販売** 5月の新車販売台数は、登録自動車が1,806台(前年同月比92.7%)、軽自動車が2,235台(同93.0%)で、合計4,041台(同92.5%)であった。
- 石油販売** ガソリン1ℓあたり149円で前月比3円60銭の低下、軽油1ℓあたり132円30銭で前月比2円20銭の低下、配達灯油は18ℓで1,751円と前月比21円の低下で11週連続の値下げとなった。需要低迷によって販売店間で価格競争が起こり収益が悪化している。
- 商店街** 生花販売などは比較的好調に推移しているが、全体的には前年同月比横這いの状況で回復感はない。(秋田市)
商店街からロードサイド店への購買移行が顕著である。(鹿角市)
- 旅行** 国内100%で、特に個人・グループ旅行が活発。海外は67%台と低調であった。例年、5月は一般団体旅行が少ない月だが、それでも低調すぎるように感じる。
- 一般建築** 公共工事の増加は望ましいところであるが、型枠工、鉄筋工、オペレーターが不足気味である。また、生コンや鋼材等の資材が高騰傾向にあることが懸念される。